

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の資質・能力を向上させるため、ICTを活用した組織的授業改善に取り組む。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程を編成し、大学進学等の進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①教員のICT活用能力向上を目指しOJTや研修を継続的に実施するとともに、ICT環境の整備をすすめる。</p> <p>②新学習指導要領に対応した教育課程編成を継続して検討し、魅力ある教育課程を編成する。</p>	<p>①研修や授業見学等を通してICTの活用事例を蓄積して授業改善につなげるとともに、ICT環境を整備する。</p> <p>②課題を抽出して検討し、本校の魅力や単位制普通科としての特徴を生かした教育課程を編成する。</p>	<p>①ICTの活用事例を蓄積・整理し、校内研修を複数回実施できたか。また、ICT環境を整備できたか。</p> <p>②課題に対し十分な検討を加え、魅力ある教育課程を編成できたか。</p>	<p>①12月に公開研究授業を実施したほか、ICTを活用した授業の校内研修を複数回実施して生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善につなげた。また、ICT環境の整備をすすめた。</p> <p>②新学習指導要領の理念を踏まえた上で、上級学校進学者の増加につながり、且つ本校の魅力を生かした単位制普通科としての教育課程を編成した。</p>	<p>①一人一台端末の導入も踏まえ、研修会の実施等を通してICTを活用した授業改善をさらにすすめるとともに、校内Wi-Fi環境やICT機器の整備等を行う。</p> <p>②来年度1年次生より導入される新学習指導要領による教育活動を充実させ、単位制普通科としての魅力を追究したカリキュラム・マネジメントをすすめる。</p>	<p>①ICTを活用した授業改善に取り組んでいることは、評価できる。一人一台端末の活用に期待する。</p> <p>②新学習指導要領の理念を具体化し、生徒の資質向上につなげてほしい。</p>	<p>①ICTを活用した授業改善をすすめるとともに、ICT環境を整備した。今後は一人一台端末に対応した教育活動を整備する必要がある。</p> <p>②新学習指導要領に基づき、本校の魅力と特色を具現化した教育課程を編成した。来年度からの実施の中で、必要な整備を継続していく。</p>	<p>①一人一台端末に対応した教育活動を整備するとともに、そのための環境整備を行う。</p> <p>②新学習指導要領の実施状況を精査し、必要なカリキュラム・マネジメントをすすめる。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>②組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①生徒の規範意識を高めると同時に、保護者への情報発信や密な連携により、協力体制を構築する。</p> <p>②日常的に生徒情報を共有する体制を構築し、外部機関とも連携した教育相談体制を構築する。</p> <p>③感染症対策に配慮した上で学校行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う。</p> <p>④感染症対策に配慮するとともに安全を確保した上で、部活動の加入率を高め、活動の活性化を図る。</p>	<p>①頭髪・服装指導、登下校指導の際は、マチコミメール等を活用して保護者の協力を求めるなど連携した指導を行う。</p> <p>②SCと各年次の教育相談担当で定期的に情報を共有し支援へとつなげる。情報共有会を開催し全職員で情報を共有する。</p> <p>③体育祭や文化祭等の行事において、感染症対策を確実に実施するとともに、生徒の主体的な取組を促す。</p> <p>④生徒会役員等と協働して生徒に働きかけ、部活動への加入率向上や活動の活性化を図る支援を行う。</p>	<p>①保護者に情報発信ができたか。保護者との協力体制を構築し、生徒の規範意識を高めることにつながられたか。</p> <p>②生徒情報を共有する中で、SCやSSWの活用や外部機関との連携など生徒一人ひとりの状況に応じた適切な支援ができたか。</p> <p>③各行事後のアンケートにおいて、8割以上の生徒から達成度及び満足度を得られたか。</p> <p>④活動前後の消毒等、感染症対策を確実に実施したか。部活動加入率を高めることができたか。</p>	<p>①頭髪・服装指導における保護者との協力体制構築のため、マチコミメールを活用するとともに、面談・電話連絡等により個々の保護者との連携に努めた。また、登下校指導回数を増やして生徒への声掛けを頻繁に行った。</p> <p>②SCを交えた生徒情報共有会を定期的実施して支援体制を構築し、必要に応じて外部機関との連携による支援を行った。</p> <p>③感染症対策を最優先に各行事を再検討し、実施した。また、生徒会役員の声を吸い上げ主体的な取組を促した。</p> <p>④部活動の加入率を高めるため、入学当初の部活動紹介などを実施したが、加入率は例年と同程度であった。</p>	<p>①今後も保護者と連携し、生徒の規範意識を高める指導を徹底するとともに、生徒会役員等とも連携して生徒の規範意識向上につながる取組を工夫する。</p> <p>②支援の必要な生徒に対し、SCやSSWとの連携により適切な支援体制を構築するとともに、地域の相談・支援機関も活用して支援体制をより強固なものとする。</p> <p>③変更を余儀なくされる生徒会行事に対して現状に合った行事となるように生徒会役員とも連携して検討を加え、再構築する。</p> <p>④部活動の魅力を発信する取組を工夫するとともに、部活動加入生徒への支援を強化する。</p>	<p>①生徒指導において、保護者との連携は不可欠である。今後も有効な連携に努めてほしい。</p> <p>②日常的に生徒情報を共有し、外部資源も活用した支援体制の整備に努めてほしい。</p> <p>③生徒会役員を中心に行事を工夫したことは評価できる。今後も臨機応変に工夫して学校行事を実施し、生徒の自己有用感や協働する姿勢の涵養につとめてほしい。</p> <p>④部活動加入率が伸びなかったことは残念であった。部活動の活性化は、生徒の成長にとって重要である。今後は加入率向上および活性化に向けた動きをすすめてほしい。</p>	<p>①生徒の規範意識を高めるため、保護者との連携体制を整備した。今後もさまざまな場面を通じて連携を強化していく。</p> <p>②日頃より生徒情報の共有に努め、支援の必要な生徒には、外部資源も活用した支援を行った。</p> <p>③生徒会役員等の主体的な取組をすすめ、感染症対策に配慮した上での学校行事を工夫することができた。</p> <p>④部活動の活性化に向けた取組を行ったが、期待以上の活性化につながれなかった。さらなる取組を工夫する必要がある。</p>	<p>①保護者との連携だけでなく、生徒会役員等とも連携した活動により生徒の規範意識を高める取組を行う</p> <p>②生徒情報の共有化をすすめるだけでなく、外部資源も積極的に活用してより有効な支援体制を構築する。</p> <p>③生徒の自己肯定感や他者を尊重し協働する態度の涵養につなげるため、感染症対策にも配慮した中で、新たな企画を取り入れた形の学校行事を実施する。</p> <p>④生徒会役員や部活動加入生徒と連携し、加入率向上や活性化に向けた取組を工夫する。</p>
3 進路指導・支援	<p>生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察する</p>	<p>①生徒の進路学習と希望進路実現に向けた教員の指導体制の充実を図る。</p> <p>②生徒が学力の向上</p>	<p>①本校の進路状況等を踏まえた進路ガイダンスや講習を実施するとともに、ICTを活用し</p>	<p>①教員対象の研修会を開催するなどして進路情報を共有できたか。また進路指導にICTを活用できた</p>	<p>①生徒の進路希望を反映したガイダンスを各年次で工夫して行うことができた。また、Classroom等を活用</p>	<p>①進路ガイダンスのさらなる充実を目指し、実施時期や内容等に必要な改善を加える。また、感染症</p>	<p>①Classroom等を活用して進路ガイダンスを実施したことは評価できる。進路指導においてもICTの活</p>	<p>①感染症対策にも配慮した上で、計画的なキャリア教育を実践できた。今後もさらなる改善</p>	<p>①ICTも活用し、生徒の希望進路実現につながる進路指導にさらなる改善を加える。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	ことのできる進路指導を展開する。	と学習習慣の見直しを考える働きかけを行い、進路実現につながる支援を行う。	た進路指導を行う。 ②1・2年次においては年3回全員受験、3年次においては年3回希望者対象の外部模試受験の機会を設定し、学習に対する意欲を喚起し学習方法の改善に結びつける。	か。 ②教育支援システムを活用し、1・2年次においては、教員の働きかけを通じて、意欲的に模擬試験に取り組み、成果を上げることができたか。3年次においては20人以上の生徒が受験し、その結果を進路指導に役立てることができたか。	し、やむを得ず実施できなかった場合でも、考える機会を提供することができる体制の整備をすすめた。 ②1・2年次においては、スタディーサポートの実施により、学力だけでなく学習習慣の見直し等について指導できた。3年次においては、外部試験の受験希望者が集まらなかった。	対策も踏まえ、ICTを活用したガイダンスもさらに工夫する。 ②スタディーサポートの結果をより有効に活用できる工夫をするとともに、上級学校進学実現に向け意欲的に模擬試験等に取り組む意識を高め、進学率の向上に結び付ける。	用を期待したい。また、校内の進路相談体制のさらなる整備も期待したい。 ②スタディーサポートの活用に関する具体的な数値目標を設定することも必要である。外部試験の受験者増加も望まれる。	を加え、生徒の希望進路実現につながる指導・支援を行う。 ②スタディーサポートの活用により、生徒の学習習慣の見直しに結び付けることができた。今後もその活用をすすめるとともに、3年次生徒の受験指導を充実させる。	②スタディーサポートの活用を定着させ、3年次生徒の進学指導を充実させるとともに、外部模試受験者を増加させるための工夫を行う。
4 地域等との協働	地域の教育力を活用し、実践教育を推進する。また、本校の教育活動を積極的に発信し、相互理解を深める中で地域に貢献する。	①本校の教育力を地域に還元し、地域に貢献できる機会を充実させるとともに、地域の教育力を本校の教育に生かす。 ②本校の魅力と特色を具体的に発信することで、地域に信頼される学校づくりを行う。	①感染症対策に配慮した上でボランティア情報を生徒に発信し、多くの生徒の参加を実現する。 ②感染症対策に配慮した上で広報活動を行い、本校の教育活動を具体的に発信するとともに、環境整備をすすめる。	①地域との連携・協働により7割以上の生徒が自己肯定感や達成感を得ることができたか。 ②中学校訪問や学校説明会等で本校の特色を効果的に伝えることができたか。また、ホームページ等を活用し、効果的な情報発信ができたか。	①学校説明会ボランティアにのべ80人が参加したが、感染症対策のため地域のボランティア活動に参加する機会が少なくなったのは残念であった。 ②感染症対策に配慮した広報活動を展開するとともに、ホームページの更新を頻繁に行い、本校の情報発信に努めた。	①感染症対策を踏まえた上での地域との交流・連携を本校の教育活動に活かす工夫を模索し、生徒の自己肯定感向上に結び付ける。 ②ホームページのさらなる整備をすすめ、より本校の魅力を発信するコンテンツを工夫するとともに、感染症対策に配慮した広報活動をすすめる。	①感染症対策により地域交流の場面が制限されていることは残念である。今後も工夫して交流を企画してほしい。 ②ホームページの整備状況が伺える。今後も情報発信に努めてほしい。また、学校の広報も工夫してほしい。	①地域交流については、新型コロナウイルスまん延前の水準の活動はできなかった。今後は地域とも連携して新たな交流場面を模索する。 ②ホームページのこまめな更新に努め、情報発信をすることができた。今後もさらなる整備をすすめ、魅力あるホームページにしていく。	①地域との協議により、感染症対策に配慮した地域交流を企画し、実践していく。 ②ホームページのコンテンツを見直し、本校の魅力を発信するとともに、よりこまめな更新に努める。
5 学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②三つ境養護学校分教室の受入れを完成し、本校の教育活動との融合を図り、インクルーシブ教育をすすめる。 ③事故・不祥事を起こさない職場づくりをすすめる。 ④教職員の働き方を見直し、休暇取得率をあげる。	①感染症対策を踏まえた学校の衛生管理体制と防災体制を整備する。 ②分教室受入れ準備を進め、インクルーシブ教育の基礎を確立する。 ③私費会計処理、行政文書管理や入試選抜等において、職員の協力体制を機能させ、適切な業務を実行して、事故・不祥事を防止する。 ④感染症対策を踏まえたスリムな業務体制を構築し、昨年度より休暇取得率を向上させる。	①清掃活動・消毒作業を徹底して教室等の衛生環境を整備するとともに、感染症対策も踏まえた学校防災活動マニュアルを策定する。 ②受入れ計画を整備するとともに、インクルーシブ教育についての協力体制を構築する。 ③職員の協働により、事故・不祥事防止を図る。情報提供や研修等により、当事者意識を高める。 ④業務メールやリモート等のオンライン化を進め、グループやPTA業務のスリム化を図る。	①活動・作業終了後に点検を行い衛生管理体制の維持が図れたか。感染対策を織り込んだ防災活動マニュアルを完成させたか。 ②受入れ体制を整備できたか。また、インクルーシブ教育に関する情報提供や研修会等を実施できたか。 ③適正な業務執行により事故・不祥事をゼロにできたか。研修等により、当事者意識を高めることができたか。 ④業務のオンライン化により、昨年度より休暇取得率を向上させたか。	①清掃活動・消毒作業を徹底して実施した。また、体育館が避難所となった際、収容可能人数を100人とした。 ②現在の併設状況の視察と分教室職員の本校訪問等を実施し、受入れ態勢の整備をすすめた。 ③事故・不祥事防止会議をのべ14回実施するとともに、適宜打ち合わせ等で注意喚起を行い、事故・不祥事を最小限に抑えた。 ④状況により在宅勤務を活用したほか、業務メールやTeamsの打合せ掲示板等を活用して会議時間の短縮を図るなど、働き方改革をすすめることができた。	①校内衛生環境の整備を継続するための工夫をすすめ、防災活動マニュアルのさらなる整備とその他の事態を想定した危機管理マニュアルを整備する。 ②受入れに向けたハード面の環境を整備するとともに、校内受入れ体制を構築する。さらにインクルーシブ教育の具体について整備をすすめる。 ③事故・不祥事をゼロにする職員の意識を高め、組織的に対応する体制をさらに整備する。 ④業務のオンライン化にさらなる整備を加え、勤務時間の有効活用及び職員の働き方に対する意識の改革に努める。	①衛生環境の整備により感染者数を抑えていることは評価できる。 ②受入準備をすすめるとともに、インクルーシブ教育の実践に向け準備をすすめてほしい。 ③事故・不祥事ゼロに向け、必要な体制整備をすすめ、次年度はゼロを達成してほしい。 ④教員の働き方改革の整備に向け、今後もICTを適宜活用し、負担感の軽減に努めてほしい。	①日々の消毒作業等と徹底した黙食指導を実施し、感染者数を最小限に抑えることができた。 ②令和5年度の受入に向けてハード面の整備はほぼ完了した。今後は、併設後の両校の協力体制について整備していく。 ③研修会を実施するとともに、点検体制の整備をすすめた。事故・不祥事ゼロに向け、さらなる点検体制の整備を行う。 ④業務のオンライン化により勤務時間の有効活用につながることができた。	①継続して衛生管理体制の整備に努めるとともに、生徒への保健指導も徹底する。 ②連絡調整のためのワーキンググループを組織し、分教室の連携を密にすることで円滑な受入れにつながる。 ③研修会を工夫するとともに、チェックシート等を用いた点検を実施する。 ④業務のオンライン化をさらにすすめるとともに、長期休業等に在宅勤務を活用する体制を構築する。

